

注意

- * 答えは、全て縦書きとし、解答用紙の決められた欄に書き入れなさい。
- * 字数には句読点も含みます。
- * 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- * 答えは、原稿用紙の正しい使い方がって書きなさい。

受 検 番 号

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ちよつと遠回りをして、「見る」ことについて話すことから始めようか。

なんでもいい、何かを見る。何かを見ることが、それだけを見ることじゃない。それと無数のほかのものとの関係も見ている。たとえば、机の上に一冊の本がある。その本には、それを書いた人がいる。印刷した人たちや、その本を売った本屋さん。あるいは、その本を読んでいるほかの人たち。その本は、そうした無数の人・無数のもの・無数のことと関わりあっている。そうした関係をこめて、その本が見えている。あらゆるもの・ことは、ほかの無数のもの・ことと関わりあっていて、そのすべてをこめて、私たちはそのものを見ている。

関係のあり方が変わると、ものごとと自体には変化がなくなるとも、その見え方は変わる。ときに小さく微妙に、ときに大きく劇的に、変わる。友だちの機嫌が悪いとしよう。何をぶんすかしてるんだと思う。だけどそれが、さつき君が言ったひとことが理由で怒ってるのだとしたら、どうだろう。そうわかったとたんに、友だちの怒りの表情が変わってこないだろうか。最初、自分に関係ないと思っていた不機嫌が、実は自分のひとことで怒らせちゃったんだとわかる。友だちの態度や表情が、今まで気づいていなかった関係の中で新たに捉え直され、その態度や表情が新たな見え方をするようになる。

どんなものも、他の何かと関係しあっている。そうした関係を、私たちは考える。その考えが、見ることを成り立たせている。だから、友だちの不機嫌の理由が自分にあるとわかったときのように、新たな関係が見つかったときには、その見え方も変わる。考えることは、見ることを成り立たせ、見ることを変えていく。むしろ逆に言おう。見ることを作り、変えていくこと、それが「考える」ということなんだ。

ある人を好きになる。そうすると、いろいろなことがその人に関係づけられて見えてくるようになる。楽しいことがあると、その人と一緒に楽しめたら、と考える。自分ひとりで見えてくるようになる。楽しいと考えると寂しくなったりもする。いろんなものごとがその人に関係づけられる。そうして、世界全体の見え方が変わってくる。

問題を抱えて答えを考えているときも、まだわかっていない関係をぼくたちはつかまえようとしている。今度の日曜はどうやって過ごそうか。——目の前の本がそれに関係してくるかもしれない。水族館が関係してくるかもしれない。そんなふうを考えていると、映画の宣伝が目に入って、「これだ！」と思うかもしれない。

好きな人を求める気持ち、問題の答えを求める気持ち、そうした気持ちが新たな関係のもとに新たな見方でものごとを見させてくれる。これが、「考える」ということだ。

(野矢 のや 茂樹 しげき 編著 『子どもの難問』による。)

問 この文章で筆者が述べている「考える」ということをふまえて、あなたは「考える」ということはどうすることだと思えますか。具体的なあなた自身の体験をあげながら、三百字以上、四百字以内で述べなさい。